

[第3部] 看護職による保健相談・指導は療養生活上 どのように役立ったか

——「療養相談に関するアンケート」による患者の声——

1 「療養相談に関するアンケート」調査の概要

(1) 調査対象者及び調査方法

1990年1月実施の「病院看護職による保健相談に関する調査」に回答を寄せた東京近郊の9病院に調査協力を依頼し、相談・指導部門の看護職に相談したことのある慢性疾患患者を対象に、188人の患者にアンケート調査を実施した。

患者・家族の来院時に、相談部門の看護職から調査協力を依頼してアンケート用紙を渡した。診察の待ち時間に、左ページの簡単な項目については、患者・家族自身がまず直接記入し、右ページは、面接者（本会調査研究室職員2名）が患者・家族に質問しながら記入した。調査対象者が自分で読んだり書いたり出来ない場合は、左ページも面接者が質問しながら記入した。

(2) 調査期間

1990年6月～8月

(3) 調査協力病院一覧表⇒

病 院 名	調 査 人 数	調 査 日	設 置 主 体	病 床 数
A	37人	1日	学 校 法 人	1240
B	13人	3日	学 校 法 人	1680
C	5人	1日	学 校 法 人	1069
D	24人	3日	学 校 法 人	507
E	27人	1日	自 治 体	330
F	56人	2日	公 益 法 人	341
G	9人	1日	日 赤	1011
H	7人	1日	日 赤	567
I	10人	2日	医 療 法 人	288
計	188人			

2 調査対象となった患者の属性

188名の年齢、性別、来所者、入院経験、病名、訪問看護の有無、相談・指導のきっかけ、相談回数、

表43 患者の年齢

年 齢 区 分	人 数 (%)
15 ～ 39歳	19 (10.1)
40 ～ 64歳	107 (56.9)
65 ～ 69歳	26 (13.8)
70 歳 以 上	36 (19.1)
計	188 (100.0)

相談時間及び集団教育や患者会・家族会への参加状況は〈表43～53〉の通り。

表44 患者の性別

	人 数 (%)
男	90 (47.9)
女	98 (52.1)
計	188 (100.0)

看護職による相談活動

表45 来所者

	人 数(%)
患 者	152 (80.9)
家 族	31 (16.5)
患者と家族一緒	4 (2.1)
知 人	1 (0.5)
計	188 (100.0)

表46 当院への入院経緯

	人 数(%)
あ り	128 (68.1)
な し	60 (31.9)
計	188 (100.0)

表48 病名

	人 数(%)
悪 性 新 生 物	3 (1.6)
糖 尿 病	125 (66.5)
神経系難病膠原病	16 (8.5)
感 覚 器 疾 患	1 (0.5)
心 疾 患	2 (1.1)
脳 血 管 疾 患	7 (3.7)
慢 性 呼 吸 不 全	15 (8.0)
肝 疾 患	2 (1.1)
消 化 器 系 疾 患	4 (2.1)
腎 疾 患	6 (3.2)
泌 尿 生 殖 器 疾 患	1 (0.5)
骨 関 節 疾 患	1 (0.5)
老 人 性 痴 呆	1 (0.5)
そ の 他	4 (2.1)
計	188 (100.0)

今回の患者は、「糖尿病」患者が66.5%と三分の二を占めているので、相談内容も食事、運動に関連するものが多いなどその特徴が現れている。「糖尿病」は、「病院看護職による保健相談に関する調査」(第1部)でも、最も多くの病院が対応している疾患である。それに加えて調査実施上、相談・指導件数の多い日を調査日とするため、糖尿病クリニックや糖尿病患者会の開催日に合わせて調査した病院も

表47 当院の訪問看護

	人 数(%)
受 け て い る	16 (8.5)
受けたことがある	30 (16.0)
受けたことはない	142 (75.5)
計	188 (100.0)

表49 相談のきっかけ

	人 数(%)
自分で見つけて	18 (9.6)
看護職に話しかけられて	22 (11.7)
主治医の指示、紹介	123 (65.4)
看護婦の紹介	16 (8.5)
行政の保健婦等の紹介	1 (0.5)
患者、家族の紹介	8 (4.3)
計	188 (100.0)

表50 相談回数

	人 数(%)
初 め て	16 (8.5)
2 ~ 4回	47 (25.0)
5 ~ 9回	28 (14.9)
10回以上	97 (51.6)
計	188 (100.0)

表51 1回の相談時間（複数回答）

	人 数(%)
15 分 未 満	106 (56.4)
15分 ~ 30分未満	77 (41.0)
30分 ~ 1時間未満	24 (12.8)
1時間~2時間未満	8 (4.3)
2 時 間 以 上	6 (3.2)
計	188 (100.0)

表52 集団指導への出席

	人 数(%)
出たことがある	89 (47.3)
出たことはない	99 (52.7)
計	188 (100.0)

表53 患者会・家族会への参加

	人 数(%)
参加したことあり	49 (26.1)
参加したことはない	139 (73.9)
計	188 (100.0)

あるため、平均以上に「糖尿病」の割合が高くなっている。

「相談回数」については、「10回以上」の人が51.6%を占めた。発病してからの期間が長い人の場合は、相談・指導の回数も多くなっている。

また、「相談時間」については、前記「病院看護職による保健相談に関する調査」で看護職が回答した時間に比べ、「15分以内」と感じている患者の割合が多い。筆者が面接調査を実施した時の印象では、患者、家族は実際に看護職と話している時間よりも短く感じて答える傾向があった。

3 療養生活上どのような点で役立ったか

「相談部門の保健婦・看護婦に相談したり、指導を受けたりすることは、療養生活を送る上で役立ちますか。」という問に対して、「大いに役立つ」(58.5%)、
「まあ役立つ」(39.4%) とほとんどの患者が肯定的な回答であった(図6)。

「役立つ」と回答した者に「療養生活上、どのような点で役立ちましたか」と質問し、以下のような選択肢から選んでもらった。

- ① 知らなかったことや疑問に思っていたことがわかった。
- ② 自分で(家族が)行なう力がついてきた。
- ③ いつでも相談できるという安心感があった。
- ④ 気になること、不安、つらい気持ちなど聴いてくれ、気持ちが落ち着いた。
- ⑤ 医師と話しやすくなった。

図6 相談部門の保健婦・看護婦に相談したり、指導を受けたりすることは、療養生活を送る上で役立ちますか

